

障害者の生涯学習 一支援者育成一

1 現状と課題	○ 障害についての理解を深める場や障害の有無にかかわらず誰もが共に学び、活動することができる場が少ない。 ○ 障害や障害者への理解を深める機会の創出と、地域コミュニティの中で、それぞれが共に支えあい、助け合う主体であることを意識するような環境作りは重要課題である。
2 期待される効果	○ 障害者の社会参加促進を目指した研修会やイベント等を実施し共助意識を醸成することで、課題解決のためのネットワーク構築を進めることができる。 ○ より多くの地域の主体と、障害者や支援活動を行っている団体、社会や福祉に関する課題に関心のある人や企業をつなぐことで、地域共生社会の構築を目指すことができる。

3 事業実践方法

(1) 概要(目的)

- 障害についての理解を深める。
- 障害者の社会参加促進を目指した研修会やイベント等を実施する。
- 研修会やイベント後、課題や問題点を整理し、さらなる研修会やイベントの実施につなげる。

(2) 対象者

- 中心市街地活性化事業イベント及び社会・福祉活動等への理解・賛同者
- 土浦市役所各担当課

(3) 委員構成

事業協力団体	事業協力団体
株式会社アトレ	モール 505 事務局
木村大 Music.Lab.	東部ガス株式会社
JR 東日本水戸支社土浦営業統括センター	日立セメント株式会社
IR 貨物土浦駅	英語発音体操
NEXT GEAR	JMK RIDE
AsoVIVA JOKER PROJECT	自衛隊茨城地方協力本部
Card Shop SAKURA	ウッドワークス
三中地区スポーツ協会	あおぞらまるしえ
土浦市立図書館	土浦市都市整備課
土浦市障害福祉課	土浦市こども包括支援課
茨城県県南教育事務所	

＜令和6年度に加わった団体＞

事業協力団体	事業協力団体
土浦祭囃子会	水郷つくば農業組合
水郷つくば農業組合	茨城県立霞ヶ浦盲学校
茨城県障害者スポーツ指導者協会	茨城県立土浦特別支援学校
つくばユニテッド サンガイヤ	茨城県立つくば特別支援学校
土浦市こども未来部	茨城県立美浦特別支援学校
アール医療専門職大学	茨城県立伊奈特別支援学校
茨城県立石岡特別支援学校	筑波技術大学

(4) 具体的な取組内容

■ 令和5年度

① 会議・交流会等

期日	内容	出席者等
令和5年 4月27日(木)	○意見交換会及び研修 … 11人参加 →「多様な主体が共に支えあい、共に学び、共に生きる共生社会を目指すこと」についての研修 ・障害者差別解消のための法律について ・合理的配慮とは 等	・モール505・JR 東日本土浦営業統括センター・木村 大 Music Lab・AsoVIVA Joker・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課 等
7月6日(木)	○意見交換会 … 17人参加 →「7月に実施するイベントを誰もが参加しやすくするための方法等」についての意見交換 ・高校生ボランティアが案内やイベント補助等を行い、来場者に積極的に声をかける。 ・各イベント会場への移動に配慮する等	・モール505・JR 東日本土浦営業統括センター・木村 大 Music Lab・AsoVIVA Joker・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課 等
8月17日(木)	○意見交換会 … 12人参加 →「7月に実施したイベントについての報告及び反省点」についての意見交換 ・広報の方法を再検討し、より見やすいチラシ作成を行う。 ・各イベントの場所についてより分かりやすい表示を作成することが必要 等	・モール505・JR 東日本土浦営業統括センター・木村 大 Music Lab・AsoVIVA Joker・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課 等
10月12日(木)	○意見交換会及び研修 … 22人参加 →「障害者の生涯学習」について学びを深める研修 ・会場内の文字情報の工夫の仕方 ・イベント会場設営上の配慮について 等	・モール505・木村 大 Music Lab・日立セメント株式会社・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市障害福祉課 等
11月16日(木)	○意見交換会 … 13人参加 →「10月に実施したイベントについての報告及び反省点」についての意見交換 ・雨天の実施となったことで、移動の補助等今後の課題が見つかった。 ・分かりやすい表示については、参加者アンケート結果で一定の評価が得られたが、より効果的な広報など今後考える。 等	・モール505・木村 大 Music Lab・日立セメント株式会社・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課・土浦市立図書館 等

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

- 各団体等を対象とした合理的配慮に関する事前アンケートの結果をもとに、具体的な対応事例を発表することで支援の方法等についての共通理解を深めるよう進行的。
- 意見交換会では、研修として障害についての理解を進め、より多くの方が参加しやすい会場やイベントを実施するための工夫や考えを出しやすい雰囲気作りを心掛けた。



【R5年度 意見交換会】



【R5年度 研修会】

② 実践

期日	内容	対象者
令和5年 7月30日(日)	○「つちうらであそぼ・まなぼ Vol.6」の開催 →「障害者支援の研修を踏まえたイベントの運営」 ・ボランティアを対象とした合理的配慮についての研修を実施し、障害者への積極的な声掛けにより困り感の解消を図った。	・イベント参加者 延べ 3,584 人 ・イベント協力団体 24
10月29日(日)	○「つちうらであそぼ・まなぼ Vol.7」の開催 →「障害者支援の研修を踏まえたイベントの運営」 ・出展団体、ボランティアが、文字情報を工夫して誰にでもわかりやすい掲示を行った。	・イベント参加者 延べ 2,329 人 ・イベント協力団体 24

＜実施にあたり、改善した点や留意した点等＞

- 外見では分かりにくい障害への配慮についても検討するなど、障害者がイベントに参加しやすい支援体制の整備をした。
- ボランティアの育成方法やボランティアの活用方法について、意見交換をしながら実践を行った。



【R5年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子①】



【R5年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子②】



【R5年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子③】



【R5年度 手話を取り入れた紙芝居】

■ 令和6年度

① 会議・交流会(議)等

期日	内容	出席者等
令和6年 4月25日(木)	○意見交換会及び研修 … 14人参加 →「多様な主体が共に支えあい、共に学び、共に生きる共生社会を目指すこと」について研修 ・障害者との交流について ・障害者差別解消法の施行に向けて 等	・モール505・JR 貨物土浦駅・木村 大 Music Lab・AsoVIVA Joker・土浦三中地区スポーツ協会・土浦祭囃子会・東部ガス株式会社・土浦市障害福祉課・土浦市こども未来部・茨城県県南教育事務所・土浦市立図書館 等
7月4日(木)	○意見交換会及び研修 … 14人参加 →「7月に実施するイベントを誰もが参加しやすくするための方法等」についての研修 ・障害者の特性に合わせた交流の方法について ・高校生ボランティアが案内やイベント補助等を行い、来場者に積極的に声をかける。 ・各イベント会場への移動の際の配慮について 等	・モール505・木村 大 Music Lab・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・土浦祭囃子会・土浦市障害福祉課・土浦市こども未来部・土浦市立図書館・茨城県県南教育事務所 等

8月29日(木)	○意見交換会 … 8人参加 →「7月に実施したイベントについての報告及び反省点についての意見交換」 ・広報の方法を再検討した結果、視認性に優れたチラシの作成や、SNSを効果的に活用する方策 ・熱中症が懸念される時期における、活動場所や活動内容についての改善点 等	・モール505・JR 貨物土浦・木村 大 Music Lab・AsoVIVA Joker・土浦三中地区スポーツ協会・土浦祭囃子会・東部ガス株式会社・NEXTGEAR・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課 等
10月10日(木)	○意見交換会 … 3人参加 →「障害者の生涯学習」について学びを深める研修 ・会場内の情報提供の工夫の仕方 ・イベント会場設営上の配慮について 等	・土浦祭囃子会・土浦三中地区スポーツ協会・土浦市こども未来部
12月12日(木)	○意見交換会 … 11人参加 →「11月に実施したイベントについての報告及び反省点」についての意見交換 ・より効果的なチラシなどの広報についての検討 ・ヤングボランティアの参加者が夏と比べると少ないことを解消するための手立ての工夫 ・市のイベント日と同時開催にしたメリットとデメリットについての意見交換 等	・モール505・木村 大 Music Lab・土浦祭囃子会・日立セメント株式会社・土浦三中地区スポーツ協会・東部ガス株式会社・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課・土浦市立図書館 等
令和7年 2月6日(木)	○意見交換会及び研修 … 11人参加 →「多くの参加者を獲得するための意見交換」 ・シニア向けブースの設置やヤングボランティアによる呼び込みを行う取り組みの推進 ・土浦市のSNSを有効活用した告知 ・デザインを活かして視覚的に引き付けるポスター作りの工夫 ※文字より写真を強調 ・露天商やキッチンカーなどへの働きかけ ・まちづくり研究会といった市街地活性化の取組をしている団体への呼びかけ ・土浦市の関係部署との連携強化 ・自らも楽しく活動できるボランティアの募集 ・新聞折込、キララちゃんバスへのポスター配付 →「多世代・障害者・外国籍の方々との交流を進める上での課題と解決方法」 ・高齢者の休憩スペース、親同士の談笑のスペースの設置 ・シニアの方を呼ぶための健康をテーマにしたブースの設置 ・社会福祉協議会や、外国人団体へのチラシ配付 ・外国人にもわかりやすい案内チラシの工夫 ・日本語学校(土浦一中地区公民館にて活動中)の先生への呼びかけ ・対象者を明確にできるイベントタイトルの工夫 ・音声ガイド、点字による案内 ・外国語バージョンの案内 等	・モール505・木村 大 Music Lab・日立セメント株式会社・土浦三中地区スポーツ協会・土浦祭囃子会・東部ガス株式会社・土浦市障害福祉課・土浦市こども包括支援課・土浦市立図書館・茨城県県南教育事務所 等
3月13日(木)	○研修 … 27人参加 →「視覚障害と視覚障害者について学びを深める」研修 ・視覚障害者の日常生活の困り感や課題 ・視覚障害者の困り感や課題を解決するためのグループディスカッション ・視覚障害の可能性について 等	・講師：川本 一輝氏 ・国立大学法人筑波技術大学情報システム学科在籍 ・合同会社 Will Shine 代表

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

- 意見交換会においては、障害についての理解を進め、より多くの方が参加しやすい会場づくりやイベント内容の工夫、考えを出しやすい雰囲気づくりを心掛けた。
- 研修においては、「聞いて学ぶ」から「自ら考えて対応する」のためのディスカッションへと転換を図り、自分事として捉えられる内容とした。

②実践(※実践活動及び検証・改善等)

期日	内容	対象者
7月28日(日)	○「つちうらであそぼ・まなぼ Vol.8」の開催 →「障害者支援の研修を踏まえたイベントの運営」 ・出展団体・ボランティアが、タブレットやスマホを用いた聴覚障害者への対応を実施した。 ・ボランティアによる障害者への声掛けと体験ブースへの案内を実施した。	・イベント参加者 延べ 3,584 人 ・イベント協力団体 20
11月24日(日)	○「つちうらであそぼ・まなぼ Vol.9」の開催 →「障害者支援の研修を踏まえたイベントの運営」 ・スタッフによる車いす利用者や特別支援学校の生徒等への積極的な声掛けにより困り感の解消を図った。 ・土浦特別支援学校の生徒による作品の販売活動のための場を提供し、自立支援活動を行った。	・イベント参加者 延べ 2,204 人 ・イベント協力団体 18

<実施にあたり、改善した点や留意した点等>

- イベント内で開催した特別支援学校による作品展において、作品の販売を担当した生徒からは「自分たちもこのような機会にボランティアをしたい」との声が上がった。また、引率の先生方からは、障害のある生徒の可能性を改めて認識する機会となったという意見を伺うことができた。
- 車いすユーザーの方から「筑波技術大学の学生による点字体験に参加して、自分も積極的に外に出る機会を増やす勇気がもらった」との声があった。今後も、障害のある方がイベントに足を運ぶことで見えてくる新しい世界創りに貢献できる機会とするための方策を考えたい。
- 障害のある方がイベントに参加するための障壁を取り除くため、「障害者の生の声」を聴く機会を増やしていく必要がある。



【R6年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子①】



【R6年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子②】



【R6年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子③】



【R6年度 つちうらであそぼ・まなぼの様子④】

<プログラム全体の検証>

○ 事業の目的

- ・ 本事業は、障害者の社会参加促進のための機会を創出し、多様な主体が共に支えあい、共に学びあい、共に生きる地域共生社会の構築を目指すことを目的としている。

○ 成果

- ・ イベント参加団体は、意見交換会において「障害者が参加しやすいイベント」を運営するための研修を行い、障害のある方や高齢者への配慮を行うことの重要性を考え、実際に行動に移す機会をつくることができた。
- ・ 意見交換会で、障害者を講師に招いての研修を実施するなどして、健常者と障害者の乖離する部分をすり合わせることで、障害への認識が深まった。

○ 課題及び今後の展望

- ・ 障害者支援のためのボランティアの育成やその活用方法について、検討を進める必要がある。
- ・ 障害の有無に関わらず楽しめるイベントづくりについては、まだまだ支援体制の工夫が必要である。
- ・ 外見では分かりにくい障害者への配慮については、どのように対応するか検討すべき課題が多く残されている。
- ・ 研修の成果を生かして、多様性を意識した誰もが参加しやすいイベントづくりを進めたい。
- ・ 行政との連携や課題解決を目指す若い力による「誰もが楽しく暮らせる」まちづくりにつなげていきたい。